

遠隔教育 e-Learning 環境における「場」の創造 ～知のモード論から“ムード論”への展開～

河又貴洋

県立長崎シーボルト大学国際情報学部

1. 知識創造の「ムード論」の展開

「状況依存学習」(situated learning) という考え方に対する最近の関心は、Brown and Duguid の一連の研究によって教育研究者に多大な影響を及ぼしてきている。彼らの一貫した主張は、「学習と認知は基本的に状況依存である」ということである。これは、知識が文脈付けられた性質を有すること、すなわち学習すべき知識をそれが用いられている状況から切り離すことができないということを意味している。このことから、知識を道具として捉える「状況依存知識」という考え方も生まれてくる(図1及び表1を参照)。

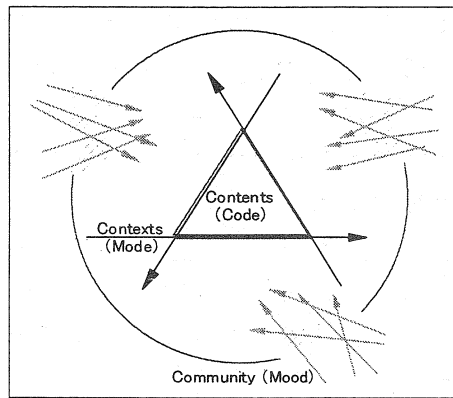


図1. 知識をめぐるコンテンツ、コンテキスト、コミュニティと学習参加

また、情報学や認知科学の観点からも「知」や「情報」は環境の中で身体を動かし、相互作用することによって生まれてくるものであり、「関係としての情報」が学習において重要視されている(西垣 2007 及び渡部 2005)。そしてここでの状況や環境においては、コミュニケーションを通じた関係性の形成の中に学習が位置づけられている。

表1. 「状況依存知識」の三層構造

類型	Content (内容)	Context (文脈)	Collaborative Circle/Community (共創体)
形態	Code (記号体系)	Mode (様式)	Mood (場の法)
対象	Object (物体・事象)	Subject (主題/対象)	Substance (実体)
財としての特性	情報財	(メディア商品)	経験財
知識創造能力のステップ	知識の獲得 (Acquiring knowledge)	知識の吸収 (Absorbing knowledge)	知識のやりとり (Communicating knowledge) - 創造
基盤	ディシプリンの形成 (「理論/概念」の理解)	「場」の共有	「一体感/共感」の醸成

本来、知識は、単に物体・事象を示すコードをコンテンツとしての獲得されるわけではなく、その物体を主題・対象として捉えるモードによって文脈の理解の上に吸収されうるが、文脈理解を得るためにも実体を見据えるムードの中でやりとりされることを通じて獲得・吸収されるものである。別の視点から捉えれば、情報財である知識がメディア商品の形態をとりながら、教育・学習という経験財を通じて、学習者の身体(思想や生き方)につきあわせていくプロセス(実体験)が学習ともいえよう。

そこで重要視されるべきは、学習環境(場)を律する「場の法」としての「ムード」(Mood)である。いわゆる場の雰囲気や空気といったものから、自由で闊達な活動を支援する技術や制度までもを包括する概念であり、それにより一体感/共通認識/共感が醸成された「共創体」を形成することになる。したがって、「ムード」とは「共創体」において知識を共有

し、新たなものを想像するためのコミュニケーションのあり方でもある。

2. マルチメディア環境としての遠隔教育 e-Learning システムと知識共創体

双方向性／片方向性と同期性／非同期性の機能を拡充してきている遠隔教育 e-Learning システムではあるが、その導入に当たって基本的に認識しておかなければならないのは、遠隔教育システムはマルチメディアであり、包括的な学習環境ではないということである。ネットワークを介して送受される情報はマルチメディア情報であり、映像と音声、テキストが同時にではあるがそれぞれに分断された情報として、モニターとマイク／スピーカーを通じて、送受される。マルチメディアとは複数のメディアが並存しながらも、統合されたものとして存在して

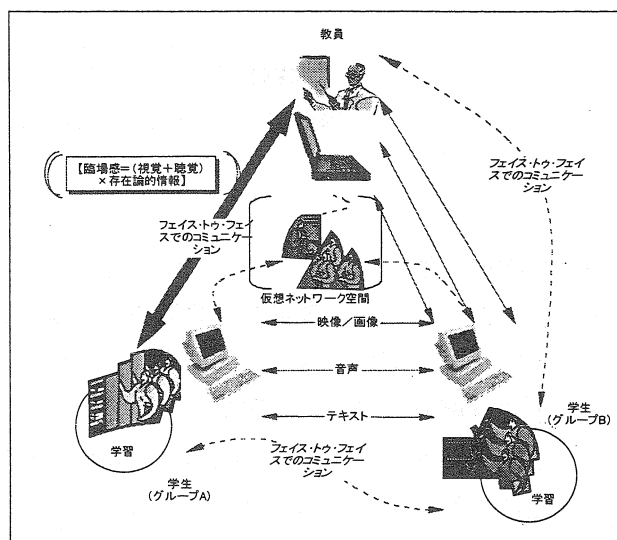


図2. 遠隔教育&e-Learning のブレンド・モデル

いるわけではない。よって、テキストを打っていると、映像を意識できず、音声がどのような文脈（発信者の表情や映像で示されている対象や背景等）であるかを確認できず、しばしば互いの状況確認に終始することになる。したがって、遠隔教育 e-Learning システムでは、学習参加者の相互の状況・背景理解が補完的に必要となる。

3. 創造的な高等教育のあり方—コミュニティ学習環境の整備

そこで、包括的な学習環境を整えることの重要性を再認識し、状況依存知識の三層構造における「ムード論」を踏まえて、遠隔の学習環境にあってはとりわけ一体感や共感を醸成するために、遠隔教育 e-Learning システムに SNS (Social Networking Service) におけるコミュニティ環境の導入を提唱する。それにより、学習者の一体感の拡大から導き出されるコミュニケーション過程で、知識の「外部性」(externality) と「遇有性」(contingency) をもたらし、他者と共鳴しながらの創造性が喚起されることが期待される。なお、SNS 導入のポイントは以下の点にある。

- 従来の BBS を超えて「コミュニティ」への帰属意識を醸成する
- コメント書き込み機能により、議論の展開を系統的に追うことができ、他者のコメントに触れることによる知識の外部性を享受できるとともに、課題（実体）への眼差しを共有する
- ネット上でのコミュニケーション過程を通じて（匿名性を排した中での）人格形成を促すことができる

学習者個々における「場」の構想（イメージング）と学習対象の実体に対する眼差しの共有のためのコミュニケーション環境の構築がムードを規定し、その環境構築において遠隔教育 e-Learning システムへの SNS の導入が、仮想と現実の重層的な知の「実体験のコミュニティ&ネットワーク」を構築する一助となるであろう。